

令和6年度

卒業研究報告書

電子工学科卒業論文の書き方

指導教員 ○○ ○○
報告者 ○○ ○○

報告日 2025年2月3日

神戸市立工業高等専門学校
電子工学科

(論文要旨)

表紙に続き、論文要旨(1ページ)を付けること。論文要旨は、読者が論文全文を読まなくても、その論文に何が書いてあるかがわかるような内容でなければならない。よって、論文要旨では、研究の背景、目的、方法、結論などを簡潔にまとめて説明すること。

- 目次 -

第1章 卒業論文の書き方	1
1.1 卒業論文の様式	1
1.2 論文の構成	1
1.3 変数・数学記号・単位等の記述方法	2
1.4 図表の書き方	2
1.5 参考文献について	2
第2章 論文作成時の注意点	3
第3章 論文の提出方法	4
謝辞	5
参考文献	6

第1章 卒業論文の書き方

神戸高専電子工学科の卒業論文の様式および書き方について説明する。

1.1 卒業論文の様式

卒業論文の様式を以下に示す。

用紙サイズ: A4縦(210[mm] × 297[mm])

用紙余白: 上下右は20[mm], 左は25[mm]

表紙: A4フラットファイルに図 1.1 に示すようにタイトル等を記入して表紙および背表紙を作成すること。

本文ページ数: 本文は20ページ以上, 30ページ以下とし, 25ページ程度を目安とする。資料となるデータ, 補足, 謝辞, 参考文献などは本文外の付録とし, 付録は本文分量には含めない。

本文書式: フォントの大きさは, T_EXなどでは10ポイント, Wordなどでは10.5ポイントを使用すること。なお, 1ページの文字数は44文字 × 40行程度とする。

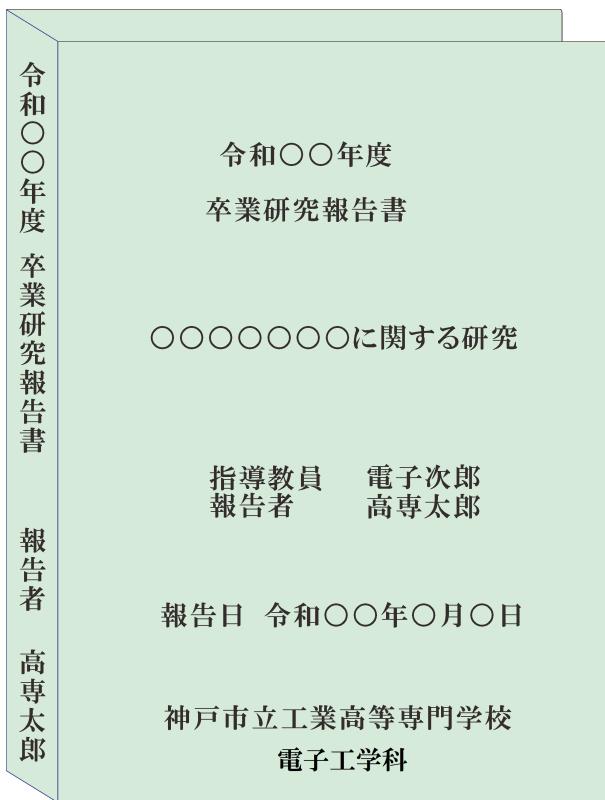


図 1.1 フラットファイルへの記入例

1.2 論文の構成

卒業論文の基本的な構成は表 1.1に示す通りである。各章に記述する内容については, 実験実習の参考書である「知的な科学技術文章の書き方」を参照すること[1]。

表 1.1 論文の構成

章	構成内容	備考
	「表紙」	電子工学科所定の様式で作成
	「論文要旨」(章立てなし)	論文内容を1ページ以内で簡潔にまとめる。
	「目次」(章立てなし)	
第1章	「序論」or「はじめに」など	
第2章	「実験方法」	
第3章	「実験結果」	
第4章	「考察」	
第5章	「結論」or「まとめ」など	
	「謝辞」(章立てなし)	
	「参考文献」(章立てなし)	
	「付録」(付録Aなど別立て)	付録がある場合に付ける。

1.3 変数・数学記号・単位等の記述方法

文中において単位や変数などを表記する場合は、表 1.2に示すように、単位、数学記号はローマン体、変数は斜体を用いるのが通例である。

表 1.2 単位や変数の表記方法

種別	誤	正
変数の例	電圧V, 電流 I, 面積S	電圧V, 電流I, 面積S
数学記号の例	$\sin\theta, \log x$	$\sin \theta, \log x$
単位の例	$V_1[V], 5[A]$	$V_1 [V], 5[A]$

これは、数式中でも同様である。また、数式には通し番号を付けて整理すること。

$$(誤) f(x) = \log x[A] \quad (1.1)$$

$$(正) f(x) = \log x[A] \quad (1.2)$$

1.4 図表の書き方

図および表の書き方は、「知的な科学技術文章の書き方」のP.117およびP.163をそれぞれ参考にし、掲載されている悪い例にならないように注意を払うこと。また、図および表には通し番号をつけること。

1.5 参考文献について

参考文献の書き方は、「知的な科学技術文章の書き方」のP.100を参照し、一般的な論文の書き方にしたがって記載すること。

第2章 論文作成時の注意点

なお、論文に掲載する図面や文面は、著作権等を考慮しなければならない。そのため、webページに掲載された画像ファイルや参考文献の図をコピーして論文に貼り付けてはいけない。また、同様に、webページや参考文献の文面を論文にコピペーストしてはならない。

第3章 論文の提出方法

- 1) 論文を提出する前に、論文が電子工学科所定の様式となっているか確認すること。
- 2) 各自で誤字や脱字がないか確認した後に、卒研指導教員に論文の内容確認を依頼すること。
- 3) 卒研指導教員の確認を終えた論文のPDFファイルを、締切までに担任の指定する方法で提出すること。(提出された論文は査読審査を行います。)
- 4) 査読審査で論文の修正を指示された場合は、適宜修正を行うこと。
- 5) 修正後の論文は、PDF形式の電子データに変換して、指定期日までに担任に指示された方法で提出するとともに、印刷を行い、電子工学科指定の様式で作成したA4フラットファイル(図??参照)に綴じて担当教員へ提出すること。この際、用紙の片面・両面は問わない。

謝辞

参考文献

- [1] 中島 利勝, 塚本 真也 : “知的な科学・技術文章の書き方”, コロナ社, pp.51-200 (1996).